

日本エイズ学会を始め関係者各位の理解が得られれば、「妊婦 HIV 検査マニュアル」の発行をはじめ、新しい検査法の普及に努める。

(5) HIV 治療薬の母体に対する影響調査（喜多班と共同研究）

妊娠中に HIV 治療薬の投与を受けた感染妊婦の臨床データの集積と解析のため、まず実施可能でデータ回収率が高率となる最も有効な調査方法を検討・立案し、必要不可欠な調査項目を具体的に選定する。更に、産婦人科全国調査データより調査対象となる症例を抽出し、調査用紙郵送による後方視的研究を行う。

研究結果

(1) 「HIV 母子感染予防対策マニュアル」の改訂

平成 19 年度、妊娠の有無に関わらず、医療支援のみならず社会支援も含め、女性感染者のトータルケア・マニュアルの作成を目標に「HIV 母子感染予防対策マニュアル第 5 版」を刊行し、全国の産婦人科診療施設を中心に配布し、わが国における最新の標準的な HIV 感染妊娠取り扱いについて普及・啓発を行った。第 5 版では、特に産科的異常妊娠（切迫早産、前期破水など）への対応について新たに解説を加え、偽陽性妊婦に陰性の結果報告するための具体策を提示に関する項の充実を図った。一方で、スタンダードプレコーションでの対応を目的に、従来の HIV 感染妊娠に特化した対応の簡略化を目指したこと、経膈分娩の可能性について言及した点が特徴である。本書は A4 本文 129 ページ、前文、参考資料（医療情報の入手先と支援団体、HIV/AIDS 関連用語集、薬剤添付文書）を含め約 300 ページで製本され、内容も更に豊富になった。患者向け説明書やクリニカルパスなどのサンプルを追加し、各ページに章の背見出しをつけるなど、読み易さ使い安さの向

上を図った。また今回マニュアル全体の大改訂を行ったことが解るように、表紙も前第 4 版から大きく刷新した。平成 19 年度末に全国の産婦人科・小児科施設を中心に関係各施設に配布した。また、20 年度には PDF 版を作成し、(財)エイズ予防財団のホームページにも掲載して戴いた。現在、誰もが本書をダウンロードし利用することが可能な環境にある。

以下、目次を列記する。

目次

研究協力者：執筆協力者

平成 19 年度和田班研究協力者名簿

第 5 版巻頭言

第 4 版巻頭言

第 3 版巻頭言

第 5 版序文

第 4 版序文

第 3 版序文

第 2 版序文

初版序文

1. HIV 感染症の現況

A. 世界における HIV/AIDS の現状

B. わが国における HIV/AIDS の現状

平成 18（2006）年エイズ発生動向—概要—

1. 結果

(1) HIV 感染者の報告数

(2) AIDS 患者の報告数

(3) 感染経路

(i) HIV 感染者の感染経路

(ii) AIDS 患者報告例の感染経路

(4) 外国国籍の患者報告

(5) 推定される感染地域および報告地

2. まとめ

C. わが国における HIV 感染妊娠の現状

平成 18 年度 厚生労働省エイズ対策研究事業「周産期・小児・生殖医療における HIV 感染対策に関する集学的研究」班研究報告書（一部改変）

報告書のまとめ

1. 研究方法

(1) 産婦人科調査

(i) 病院調査

(ii) 産婦人科診療調査

(2) 小児科調査

2. 成績

(1) 妊婦 HIV 抗体検査実施率（産婦人科病院および診療所調査）……表 2

(2) HIV 感染妊婦の集計結果

(i) 産科・小児科統合解析結果

- (ii)地域別・年次別分布……表 3
- (iii)国籍別・年次別分布……表 4
- (iv)妊婦転帰の年次推移
- (3)HIV 母子感染予防対策の実施状況とその効果
 - (i)HIV 感染妊婦への抗ウイルス薬投与について……表 5
 - (ii)母子感染率が 0.5%に……表 6
 - (iii)分娩様式と抗ウイルス薬の投与状況……表 7
 - (iv)抗ウイルス療法による血中ウイルス量の変化……表 8
 - (v)年次別母子感染予防対策とその効果……表 9
- (4)感染児 42 例の検討（小児科 2 次調査）
 - (i)平成 18 年に新規 1 例が報告された。……表 1 0
 - (ii)最終受診時の状況……表 1 1
 - (iii)HIV 感染妊婦より出生した児の実態調査

II. HIV 母子感染予防対策（Prevention of Mother-To-Child t ransmission of HIV, PMTCT）

A. 現時点での日本における HIV 母子感染予防対策の原則

B. 妊婦への HIV 検査

1.妊婦 HIV 検査の意義

2.検査前の説明

- (1)H I V 検査についての現状
- (2)妊婦 HIV スクリーニング検査前の説明

3.インフォームドコンセント

4.妊婦 HIV スクリーニング検査の結果説明

- (1)スクリーニング検査の結果が陰性
- (2)スクリーニング検査の結果が「陽性」
 - (i)スクリーニング検査の陽性的中率が低い事への配慮（確認検査の必要性）
 - (ii)検査結果説明の実際（必要項目）

(3)確認検査が陽性

- (i)確認検査で陽性の妊婦に対する配慮
- (ii)告知の実際

5. 感染女性診察上の注意点（内科，婦人科）

- (1)内 科
- (2)婦人科

C. 妊娠中の対応

1.HIV 感染妊婦に対する支援

- (1)妊娠継続にかかわる自己決定の支援
- (2)サポート形成の支援
 - (i)病気を知っている支援者の獲得
 - (ii)支援ネットワークの拡大

(iii) 経済基盤の確保（社会資源の活用）

参考：現在利用可能な母子保健に関する医療保険制度

(iv) 外国人に対する支援

参考：国立国際医療センターにおける外国人 HIV/AIDS 患者の治療の流れ

(3) 医療機関の診療体制

(i) 院内の他科・他部門との連携

(ii) 院外他施設との連携

2. HIV 感染妊娠に必要な妊娠初期検査

3. 抗ウイルス療法

(1) 概説

(2) 抗 HIV 薬の選択

(i) 抗 HIV 薬による HIV 母子感染予防

(ii) 妊娠中の抗 HIV 薬投与の基本

(iii) 妊娠中の抗ウイルス薬を投与時に考慮すべきこと

(3) 抗 HIV 薬の開始時期

(i) 抗ウイルス薬を内服している HIV 感染者で妊娠が判明した場合

(ii) 抗ウイルス薬を内服したことのない HIV 感染者で妊婦が判明した場合

① 妊娠時に抗ウイルス薬を内服していない場合で本人の治療も必要な場合

② 妊娠時に抗ウイルス薬を内服していない場合で母子感染予防のための治療が必要な場合

(iii) 抗ウイルス薬を以前に内服していたが妊娠時には内服していない場合

(4) 抗ウイルス薬の中止の仕方

(5) 特殊な状況

(i) B 型肝炎の合併

(ii) C 型肝炎の合併

(6) 抗 HIV 薬投与後のモニタリングと対応

(i) 治療効果と副作用のモニタリング

(ii) 注意が必要な薬剤

・エファビレンツの催奇形性

・ネビラピンの肝障害と皮疹

・プロテアーゼ阻害薬と高血糖

・核酸系逆転写阻害薬とミトコンドリア障害

・AZT による貧血

・嘔気、嘔吐といった消化器症状

(7) 服薬アドヒアランス育成に対する支援

参考：HIV 感染妊婦に対するケアフローチャート

4. 分娩時期と分娩方法

(1) 分娩時期

(i) 帝王切開術の時期に関する解説

(ii)分娩時期に関するこれまでの報告

(2)分娩方法

(i)経膣分娩を選択せざるを得ない場合

(ii)経膣分娩時の対応と注意点

参考：多剤併用療法にて血中ウイルス量が良好にコントロールされている場合の経膣分娩の可否について

5.切迫早産・前期破水時の対応

6.産科診療における注意点

(1)外来診療における合併症への注意点

(i)妊婦とHIV感染の相互作用に及ぼす影響

(ii)合併する感染症

(iii)胎内感染のリスク

(2)看護上の注意点

(i)外来（妊婦健診など）での注意点

参考：外来通院時の看護ケアと指導項目

(ii)病棟（入院中）での注意点

(iii)病棟看護の実際

①看護体制

②プライバシーの保護

(iv)感染防止

①処置時の対応

②病室の準備

③環境整備

④日常生活上の注意

参考：入院患者向け指導文書の例

(v)器材の消毒の例

D. 分娩時の対応

1.帝王切開術時に使用する薬剤

参考1：点滴用AZT、AZTシロップの入手法

参考2：帝王切開術時に投与する点滴用AZTの調整法

参考3：母子感染防止を目的とした抗HIV薬の短期療法

3.病棟での術前準備と術後ケア

(1)入院後（または入院前）

(2)手術前日

(3)手術当日

(4)術後ケア：通常の術後ケア

参考1：HIV合併帝王切開術パス（医療者用）追加

参考2：HIV合併帝王切開術パス（患者用）追加

4.実際の手術にかかわる留意点

- 5.手術に必要な人員
 - 6.手術時の服装
 - 7.手術時の準備
 - 8.手術の実際
 - 9.新生児の処置
 - (1)清拭の準備
 - (2)新生児の受け取り・処置（低体温にならないように注意）
 - (3)胎盤計測、臍帯血採取
 - 10.手術室のあとかたづけ
- E. 分娩後の対応
- 1.児への対応
 - (1)出生後管理の実際
 - (2)出生児への抗ウイルス薬の予防的投与
 - (i) AZT シロップ投与方法
 - (ii) 在胎 36 週未満の早産児に対する投与方法
 - (iii) AZT 投与による副作用
 - (iv) AZT 投与期間の短縮
 - (v) AZT を含めた併用療法（対象は正期産児のみ）
 - (3) Pneumocystis carinii(jiroveci) pneumonia(PCP)の予防
 - (i) 対 象
 - (ii) 方 法

参考 1：母体 H I V 合併出生児バス（医療者用）追加
参考 2：母体 H I V 合併出生児バス（家族用）追加
 - (4) 新生児・乳幼児における診断基準
 - (i) 検査時期
 - (ii) 感染の診断
 - (iii) 非感染の診断
 - (5) 抗ウイルス薬に暴露した非感染児の追加観察
 - (6) 予防接種の進め方
 - 2.母体への対応
 - (1)断乳の必要性
 - (2)乳房緊満への対処
 - (3)止乳に使われる薬剤
 - 3.退院時指導
 - (1)産後の性生活
 - (i)性交の開始時期
 - (ii)避妊の必要性とその方法
 - (2)今後の家族計画に対する支援（挙児希望する感染者夫婦への対応）

(3)服薬継続に関する支援

参考：日常生活に役立つ Condom 情報

Ⅲ. その他の関連する HIV 感染予防対策

A. 院内での感染予防対策

1.スタンダードプリコーション（標準予防策）

(1)手指衛生

(2)防護用具の適切な使用

①手袋

②ガウン、エプロン

③マスク、アイプロテクション（ゴーグル）、フェイスシールドマスク

(3)患者ケアや処置に使用した器具および器材の取り扱い

(4)患者環境の管理

(5)リネンの取り扱い

(6)血液媒介病原体の曝露予防（針刺し・切創対策）

2.汚染事故発生時の対応

参考：「医療事故後の HIV 感染防止のための予防服用マニュアル」2007年7月改訂版 ←PDFのP

B. これから妊娠を希望する感染者への対応

1 妊娠前の感染者への対応

2 性交による感染を回避でき得る妊婦

(1) 妻が HIV 感染陽性で夫が陰性の場合

(2) 夫が HIV 感染陽性で妻が陰性の場合

編集後記

Ⅳ. 参考資料

A. 医療情報の入手先と支援団体

1.HIV/AIDS 関連のウェブサイト

2.ACCと各ブロック拠点病院のウェブサイト

3.主な派遣カウンセラー連絡先

4.主な HIV 感染者支援団体連絡先（付・外国語通訳）

B. HIV/AIDS 関連用語集

C. 主な抗 HIV 薬の添付文書

(2) 妊婦 HIV スクリーニング検査に関する一般妊婦向け啓発書の刊行

平成19年度、当研究班全国調査データの刷新、偽陽性に関する研究成果の提供、その他最新知見の挿入を目的に、「あなた自身の健康と赤ちゃんの健やかな誕生のために一妊娠初期検査の一環として HIV 検査をお受けになることをお勧めします」を改訂した。特に臨床現場で問題が生じやすい偽陽性については、一般の人が理解しやすいよう、また誤解を招かぬよう配慮し改変した。また、スクリーニング検査結果が陽性だった妊婦が、結果の意味するところを容易に理解できるように、スクリーニング検査陽性者向けの解説書として、「妊婦 HIV スクリーニング検査（一次検査）で結果が陽性だった方へ」を作成した。

(社)日本産婦人科医会の協力により、両紙を全国の産婦人科医師に提供した。また誰もがダウンロードし印刷することで活用できるよう、両紙をPDF化し(財)エイズ予防財団ホームページに掲載して戴いた。

(3) 感染女性を対象とした HIV/AIDS 解説書刊行 (五味淵班との共同研究)

HIV 感染女性に感染防御の観点から望ましい性行動のあり方や感染者の妊娠出産に関わる情報を提供する小冊子「女性のための Q&A—あなたと赤ちゃんのためにできること—」は、新薬や治療の開始基準など新しい情報に基づき、今年度改訂作業を行っている。

また、当研究班で行った感染女性に対する性生活や育児希望に関する問題についてのアンケート調査と、感染女性支援職種に対する感染女性の性生活や育児希望に関する問題の認識度やその対策についての知識についてのアンケート調査の結果、多くの感染女性が妊娠・出産を希望し、一方で支援者にはこの点に関する問題意識が希薄で、感染女性の妊娠・出産を援助するための知識が十分とはいえないことが明らかとなっている。本年度新たに、支援者向けの「感染女性支援マニュアル(仮)」(五味淵班と共同研究)をも作成している。「感染女性支援マニュアル(仮)」は、「女性のための Q&A—あなたと赤ちゃんのためにできること—」に対する医療者向け解説書

(学校教育における教科書に対する教師向け指導書のような位置付け)の体裁をとることにした。医療者が女性感染者支援の際に「女性のための Q&A—あ

なたと赤ちゃんのためにできること—」という教科書を用い、理解しやすい説明を行う上で参考となるよう項目立てされている。「女性のための Q&A—あなたと赤ちゃんのためにできること—」は、(患者向け)および(医療者向け)と2分冊で刊行されることになる。患者向け冊子タイトルは「新版 女性のための Q&A —貴女らしく明日を生きるために—」、医療者向け冊子タイトルは「新版 女性のための Q&A 【医療者向け】 —診療・ケアのための基礎知識—」とした。現在発刊に向けて最終校正の段階にある。

以下に目次を記す。

新版 女性のための Q&A

—貴女らしく明日を生きるために—

はじめに

- 1) 女性感染者の現状
- 2) HIV 感染症とは
- 3) 治療法と「確実な服用」について
- 4) 日常生活で気をつけること
- 5) 仕事や人間関係について
- 6) 妊娠・出産・育児について
- 7) HIV 感染者が利用できる制度

資料

1. 利用可能な公的制度
2. ACC と HIV/AIDS 治療拠点病院リスト
3. HIV/AIDS 関連の WEB サイト
4. 支援団体リスト (電話相談など)

新版 女性のための Q&A 【医療者向け】

—診療・ケアのための基礎知識—

はじめに

- I. HIV 検査の進め方と感染告知
- II. 女性 HIV 感染者向けハンドブックの補足
 - 1) 女性の感染者の現状
 - 2) HIV 感染症とは
 - 3) 治療と「確実な服用」について
 - 4) 日常生活で気をつけること
 - 5) 仕事や人間関係について
 - 6) 妊娠・出産・育児について
 - 7) HIV 感染者が利用できる制度

III. 資料

- 1) 利用可能な公的制度
- 2) ACC と HIV/AIDS 治療拠点病院リスト
- 3) HIV/AIDS 関連の WEB サイト
- 4) 支援団体リスト (電話相談など)

(4) 妊婦 HIV スクリーニング検査における偽陽性率の検討と陽性例への対応 (検査体制の構築に関する研究班との共同研究)

偽陽性を可能な限り除外するスクリーニング検査システムとして、二つの異なったスクリーニング検査キットを組み合わせることで、偽陽性の多くを解消できることが示された。

現在繁用されている抗原抗体同時検査法 (エンザイグノスト HIV インテグラル) を 1 次スクリーニング検査として用いた場合に発生した陽性 13 検体中、2 次スクリーニング検査 (追加検査) として更に高感度の別の検査キットである抗原抗体同時検査法 (バイダス HIV デュオ II) を用いることにより、12 例は陰性、1 例が陽性の結果が得られた。追加検査で陰性の 12 例は確認検査でも陰性であり、追加検査で陽性の 1 例は、確認検査でも陽性であった。以上の如く、追加検査の導入は、感染者の少ない妊婦集団では偽陽性回避のために極めて有用な検査方法であることが分かった。しかし一般臨床検査への追加検査の導入に関しては、偽陰性の発生を危惧する意見もあり、十分な理解は未だ得られていない。追加検査法は保健所検査などの限られた分野においてのみ活用されている現状にある。従って、現時点で追加検査法等を利用した「偽陽性解消のための妊婦 HIV 検査マニュアル」の作成は時期尚早と考えられた。しかし、日本エイズ学会を中心に改訂作業が行われた、平成 20 年 11 月の日本エイズ学会理事会で最終承認された「診療における HIV-1/2 感染症の診断法 2008 年版」の本文中には、妊婦スクリーニング検査の特殊性 (陽性的中率が低い) を追加することで偽陽性について関係者に注意を喚起することになった。

(5) HIV 治療薬の母体に対する影響調査 (喜多班と共同研究)

妊娠中に HIV 治療薬の投与を受けた感染妊婦の臨床データの集積と解析及び一般 HIV 感染者集団との比較のため、まず実施可能でデータ回収率が高率となる最も有効な調査方法を検討・立案し、必要不可欠な調査項目を具体的に選定した。

具体的調査項目は、

ART の内容: ART の開始時期、開始時の妊娠週数、ART 開始直前の CD4 数、ART 開始直前の HIV-RNA 量、出産直前の CD4 数、出産直前の HIV-RNA 量、ART の内容 (抗 HIV 薬の組み合わせ)。

副作用調査: 自覚症状の有無、血液検査データについて ART 開始後 (妊娠中のみ) 4 週ごとに記載。

1) 自覚症状: 嘔気・嘔吐、下痢、皮疹、頭痛、しびれ、精神症状 (うつ、イライラなど)、全身倦怠感、その他の症状 * 有害事象ガイドラインに基づき副作用のグレード記載

2) 血液検査: WBC Hgb MCV PLT AST ALT
TG T-CHO 血糖 乳酸

昨年度、これまでに分担研究和田班、喜多班で行ってきた全国産婦人科調査により集積した感染妊婦症例の中から、妊娠中の ART による有害事象に関するアンケート調査の対象となる症例を抽出した。これまでに集積された 517 症例中、妊娠中に抗ウイルス薬の投与を受け、その薬剤名も報告されており、かつ分娩に至った症例は 223 症例あった。内訳は、単剤投与 72 症例 (うち 6 例はレジメン変更)、2 剤投与 4 症例 (うち 1 例はレジメン変更)、3 剤以上の多剤併用療法 147 症例 (うち 13 例はレジメン変更) である。また 223 例の分娩様式のうちわけは、選択的帝王切開術 207 症例、緊急帝王切開術 11 症例、経陰分娩 5 症例だった。

今年度はこれらの症例を対象に、上記項目を含めた詳細な調査を行う予定であった。わが国では予てより多くの HIV 関連製薬会社が協同で、妊娠の有無に関わらず HIV 治療薬の副作用調査を統一して行っている。当班で当初計画したアンケート (後方視的研究) は、担当医療者の手を煩わせるばかりで、副作用調査データ以上の結果が得られる可能性も低いことから、新規感染妊婦症例に限った前方視的研究など、研究方法について再検討が必要と考えられた。

考察

(1) 今回改訂したマニュアル第 5 版は、妊娠の有無に関わらず医療支援のみならず社会支援も含めた女性感染者のトータルケア・マニュアルを目標として作成されたため、新たに原稿を起した項目が多く、またこれまで以上に内容の充実したマニュアル

に改訂されている。HIV 感染妊娠の診療においては、特に②産科的異常妊娠（切迫早産、前期破水など）への対応、③可能な限りスタンダードプレコーションでの対応に主眼を置き改訂した。改訂作業を通じ、産科的異常妊娠への対応については、症例が少ないためかこれに言及する報告が少数であること、スタンダードプレコーションへの準拠については未だ困難な面も散見されることを実感した。この2点に経膈分娩の可能性を含めた3点については、次回改訂の際に再度詳細な検討が必要と考えられた。

(2) 妊婦 HIV スクリーニング検査に関する一般妊婦向け啓発冊子「あなた自身の健康と赤ちゃんの健康やかな誕生のために—妊娠初期検査の一環として HIV 検査をお受けになることをお勧めします」は、臨床現場で多発するスクリーニング偽陽性に関わる混乱への配慮から、スクリーニング検査結果の解説に力点が置かれたものとなった。更に、厚労省から通知が発せられる程の社会問題と化したことから、スクリーニング検査結果が陽性だった妊婦向け解説書「妊婦 HIV スクリーニング検査（一次検査）で結果が陽性だった方へ」を作成することとなった。両紙合わせて（社）日本産婦人科医会を介し全国産婦人科医師に送付し紹介した。また、両紙を（財）エイズ予防財団ホームページの掲載していただいた。誰もがダウンロードし印刷することが可能であり、医療者が妊婦への結果説明の際に常時活用が可能となっている。

(3) 感染女性を対象とした HIV/AIDS 解説書「女性のための Q&A—あなたと赤ちゃんのためにできること—」（患者向け）は毎年送付依頼が多く寄せられている。現在新しい情報に基づき、「新版 女性のための Q&A —貴女らしく明日を生きるために—」として改訂作業中である。また、感染女性の支援者向けにも「感染女性支援マニュアル」（五味淵班と共同研究）は、「新版 女性のための Q&A【医療者向け】—診療・ケアのための基礎知識—」として現在作成中である。両冊子完成により、女性にとって感染防御の観点から望ましい性行動のあり方や感染者の妊娠出産に関わる観点を中心に、女性感染者の支援はさらに充実するものと思われる。

(4) 妊婦 HIV スクリーニング検査における偽陽性率の検討と陽性例への対応（検査体制の構築に関する研究班との共同研究）では、確立した偽陽性解消法について、その一般妊婦臨床検査への活用に関しては、現段階では関係者全員の理解は得られなかった。しかし本法は、偽陽性によってもたらされる、本来不要であるべき妊婦の精神的・経済的負担を除くことができ、今後もその臨床応用について研究を進めて行きたい。

(5) HIV 治療薬の母体に対する影響調査（喜多班と共同研究）は、前記の理由から実施しなかった。HIV 治療薬の妊娠中投与の安全性に関わる研究は極めて重要である。今後前方視的研究をめざし研究計画を再度立案することになるが、症例数は極めて少数に限られてくるものと思われる。一方で既存の副作用調査データの解析も、関係者に考慮していただきたいと考える。

平成 18 年度業績

1. 書籍

- 1) 矢永由里子: HIV と心理臨床—新たな枠組み、井上孝代（編）: コミュニティ支援のカウンセリング、東京: 川島書店、2006: 203-217
- 2) 矢永由里子: HIV と臨床心理地域援助、野島一彦（編）: 現代のエスプリ別冊 臨床心理地域援助研究セミナー、東京: 至文堂: 2006: 203-213
- 3) 大金美和: 女性の感染者の方に必要な支援には、どのようなことがありますか、岡慎一（編）: HIV Q&A、東京: 医業ジャーナル社: 2006: 64-66

2. 論文発表

- 1) Shuzo Usuku, Yuzo Noguchi, Mitsuo Sakamoto, Takuya Adachi, Hiroko Sagara, Koji Sudo, Masako Nishizawa, Makiko Kondo, Osamu Tochikubo and Mitsunobu Imai. Analysis of a Long-Term Discrepancy in Drug-Targeted Genes in Plasma HIV-1 RNA and PBMC HIV-1 DNA in the Same Patient. Jpn. J. Infect. Dis., 59, 122-125, 2006
- 2) 種元智洋, 塚原優己, 北川道弘: 母子感染総論 1.

母体徴候。産婦人科の実際 2006 : 55 : 371-374

3) 坂田麻里子, 塚原優己, 久保隆彦, 北川道弘: 母子感染各論 AID ウイルス。産婦人科の実際 2006 : 55 : 457-463

4) 源河いくみ: 合併症妊娠の予後 HIV 感染合併妊娠—感染症(HIV) 専門医—。周産期医学 2006 : 36 : 19-23

5) 箕浦茂樹, 大金美和, 三島典子, 石川真由美, 与那嶺辰美: HIV 感染妊婦女性に対する看護と支援。周産期医学 2006 : 36 : 45-48

6) 谷口晴記, 塚原優己, 喜多恒和, 和田裕一, 外川正生, 戸谷良造, 稲葉憲之: HIV の母子感染と対策。に本臨床 2007 : 65 (増刊号 3) : 518-521

3. 学会発表

1) Yamada R., Shima T., Imai M., Genka I., Ogane M., Kawado M., Taniguchi H., Tsukahara Y., Inaba N.: The false positive rate of antenatal HIV screening is very high in Japan. XVI International AIDS Conference. 13-18 August, 2006, (Toronto, Canada)

2) 嶋 貴子, 今井光信, 谷口晴記, 早川智, 外川正生, 塚原優己, 稲葉憲之: 妊婦集団における HIV スクリーニング検査の偽陽性出現率に関する調査。第 80 回日本感染症学会総会・学術講演会。2006.4.20-21 (東京)

3) 谷口晴記, 塚原優己, 外川正生, 早川智, 嶋貴子, 太田順子, 西川正能, 正田亜紀子, 岡崎隆行, 池田綾子, 大島敦子, 稲葉憲之: HIV 母子感染成立例の産科的背景について。第 80 回日本感染症学会総会・学術講演会。2006.4.20-21 (東京)

4) 早川智, 塚原優己, 吉野直人, 北村勝彦, 稲葉憲之: 我が国における HIV 感染妊婦の現状と垂直感染のコントロール(平成 16 年度の全国調査成績より)。第 80 回日本感染症学会総会・学術講演会。2006.4.20-21 (東京)

5) 塚原優己, 山田里佳, 谷口晴記, 和田裕一, 喜多恒和, 戸谷良造, 稲葉憲之: 胎児期・新生児期の抗 HIV 薬投与が児に及ぼす影響 - HIV 感染妊婦より出生した児の追跡調査 -。第 58 回日本産科婦人科学会総会。2006.4.21-25 (横浜)

6) 山田里佳, 塚原優己, 谷口晴記, 瀬戸裕, 堀裕雅, 和田裕一, 喜多恒和, 戸谷良造, 稲葉憲之: 妊婦 HIV スクリーニング検査の偽陽性に関する前方視的検討。第 58 回日本産科婦人科学会総会。2006.4.21-25 (横浜)

7) 谷口晴記, 塚原優己, 井上孝実, 喜多恒和, 和田裕一, 戸谷良造, 稲葉憲之: HIV 母子感染成立例の産科的背景と児の予後。第 58 回日本産科婦人科学会総会。2006.4.21-25 (横浜)

8) 塚原優己, 谷口晴記, 和田裕一, 蓮尾泰之, 松田秀雄, 箕浦茂樹, 国方徹也, 尾崎由和, 葛西健郎, 稲葉憲之: わが国の HIV 感染妊婦の将来予測。第 42 回日本周産期・新生児医学会総会。2006.7.9-11 (宮崎)

9) 谷口晴記, 塚原優己, 和田裕一, 蓮尾泰之, 松田秀雄, 箕浦茂樹, 国方徹也, 尾崎由和, 葛西健郎, 北村勝彦, 稲葉憲之: 妊婦 HIV スクリーニング検査偽陽性に関する前方視的検討とその対策。第 42 回日本周産期・新生児医学会総会。2006.7.9-11 (宮崎)

10) 嶋 貴子: シンポジウム「感染女性の妊娠・出産・育児支援」スクリーニング検査偽陽性の現状と対策。第 20 回日本エイズ学会学術集会・総会。2006.11.30-12.2 (東京)

11) 矢永由里子: シンポジウム「感染女性の妊娠・出産・育児支援」妊婦 HIV 検査陽性への対応の問題点。第 20 回日本エイズ学会学術集会・総会。2006.11.30-12.2 (東京)

12) 大金美和: シンポジウム「感染女性の妊娠・出産・育児支援」HIV 感染女性の妊娠・出産希望に対する支援の問題。第 20 回日本エイズ学会学術集会・総会。2006.11.30-12.2 (東京)

13) 大金美和, 三島典子, 橋朋子, 井上誉子, 矢野麻子, 石垣今日子, 畑中祐子, 山田由紀, 武田謙治, 池田和子, 島田恵, 与那嶺辰美: HIV 感染妊婦に対する看護の検討(その 1) 外来看護について。第 20 回日本エイズ学会学術集会・総会。2006.11.30-12.2 (東京)

14) 橋朋子, 大金美和, 三島典子, 井上誉子, 矢野麻子, 石垣今日子, 畑中祐子, 山田由紀, 武田謙治, 池田和子, 島田恵, 与那嶺辰美: HIV 感染妊婦に対

する看護の検討(その2) 病棟看護について, 第20回日本エイズ学会学術集会・総会, 2006.11.30-12.2 (東京)

15) 矢永由里子: 第20回日本エイズ学会学術集会「電話相談の現状と課題～今後の電話相談のあり方を考える～」, 第20回日本エイズ学会学術集会・総会, 2006.11.30-12.2 (東京)

16) 嶋 貴子: シンポジウムIV「わが国における HIV 感染妊娠の現状と対応」妊婦 HIV 検査実施率および検査偽陽性とその対応, 19回日本性感染症学会第学術大会, 2006.12.9-10 (金沢)

17) 塚原優己: シンポジウムIV「わが国における HIV 感染妊娠の現状と対応」HIV 感染妊婦への対応～最新のマニュアルから, 19回日本性感染症学会第学術大会, 2006.12.9-10 (金沢)

18) 谷口晴記, 塚原優己, 川戸美由紀, 源河いくみ, 山田里佳, 大金美和, 嶋貴子, 和田裕一, 喜多恒和, 稲葉憲之: わが国の HIV 感染妊娠の将来予測 (中・長期展望), 19回日本性感染症学会第学術大会, 2006.12.9-10 (金沢)

4. 講演

1) Yuriko Yanaga: Seminar on Sexual Transmitted Disease, Control of AIDS and ATL 「HIV/AIDS Mental Health Psychosocial Issues of People living with HIV/AIDS and its intervention」2006.8.8.(Kumamoto, Japan)

2) 塚原優己: HIV 母子感染の現状と問題, 神奈川県立高等学校性・エイズ教育実践研究会性・エイズ教育セミナー, 2006.08.01 (横浜)

3) 大金美和: 女性患者の看護支援, HIV 感染妊婦の看護研修会, 2006.1.27 (東京)

4) 山田里佳: 性行為感染による HIV の蔓延と母子感染予防対策, エイズ予防財団主催平成 18 年度研究成果発表会「わが国における HIV 感染妊娠」, 2006.10.22 (甲府)

平成 19 年度業績

1. 書籍

1) 塚原優己, 今井光信, 松岡恵, 谷口晴記, 井上孝

実, 源河いくみ, 山田里佳, 大金美和, 嶋貴子, 小林裕幸, 矢永由里子, 沼直美, 内山正子, 高田千恵子, 辻麻里子: HIV 母子感染予防対策マニュアル (第 5 版), 平成 19 年度厚生労働科学研究費補助金(エイズ対策研究事業)「HIV 感染妊婦の早期診断と治療および母子感染予防に関する臨床的・疫学的研究」班 分担研究「わが国独自の HIV 母子感染予防対策マニュアルの作成・改訂に関わる検討」グループ, 2007

2) 塚原優己, 今井光信, 松岡恵, 谷口晴記, 井上孝実, 源河いくみ, 山田里佳, 大金美和, 嶋貴子, 小林裕幸, 矢永由里子, 沼直美, 内山正子, 高田千恵子, 辻麻里子: あなた自身の健康と赤ちゃんの健やかな誕生のために (改訂版), 平成 19 年度厚生労働科学研究費補助金(エイズ対策研究事業)「HIV 感染妊婦の早期診断と治療および母子感染予防に関する臨床的・疫学的研究」班 分担研究「わが国独自の HIV 母子感染予防対策マニュアルの作成・改訂に関わる検討」グループ, 2007

3) 塚原優己, 今井光信, 松岡恵, 谷口晴記, 井上孝実, 源河いくみ, 山田里佳, 大金美和, 嶋貴子, 小林裕幸, 矢永由里子, 沼直美, 内山正子, 高田千恵子, 辻麻里子: 妊婦 HIV スクリーニング検査 (1 次検査) で結果が陽性だった方へ, 平成 19 年度厚生労働科学研究費補助金(エイズ対策研究事業)「HIV 感染妊婦の早期診断と治療および母子感染予防に関する臨床的・疫学的研究」班 分担研究「わが国独自の HIV 母子感染予防対策マニュアルの作成・改訂に関わる検討」グループ, 2007

4) 木下勝之, 川端正清, 平原史樹, 落合和彦, 小村明弘, 塚原優己, 清水康史, 関沢明彦: 日本産婦人科医会 研修ノート No.79 女性健康外来-ライフサイクルと診療-, 日本産婦人科医会学術部・研修部会, 2007

5) 木下勝之, 川端正清, 平原史樹, 落合和彦, 小村明弘, 塚原優己, 清水康史, 関沢明彦: 日本産婦人科医会 研修ノート No.78 胎児の評価法-胎児評価による分娩方針の決定-, 日本産婦人科医会学術部・研修部会, 2008

2. 論文発表

- 1) Gatanaga, H., Ibe, S., Matsuda, M., Yoshida, S., Asagi, T., Kondo, M., Sadamasu, K., Tsukada, H., Masakane, A., Mori, H., Takata, N., Minami, R., Tateyama, M., Koike, T., Itoh, T., Imai, M., Nagashima, M., Gejyo, F., Ueda, M., Hamaguchi, M., Kojima, Y., Shirasaka, T., Kimura, A., Yamamoto, M., Fujita, J., Oka, S., and Sugiura, W. Drug-Resistant HIV-1 Prevalence in Patients Newly Diagnosed with HIV/AIDS in Japan. *Antiviral Research* 75: 75-82, 2007.
- 2) 塚原優己, 相楽裕子, 喜多恒和, 嶋 貴子, 矢永由里子, 外川正生, 大金美和, 稲葉憲之: 感染女性の妊娠・出産・育児支援. *日本エイズ学会誌* 2007: 9: 116-119
- 3) 塚原優己, 左合治彦, 大井静雄, 西條英人, 門松香一, 金子剛, 小山耕太郎, 川滝元良, 前野泰樹, 北野良博, 本名敏郎, 田口智昭, 岡和田学, 久松栄治他: 胎児・新生児異常の治療とその予後. *産婦人科の実際* 2007: 56: 812-917
- 4) 山田里佳, 塚原優己: HIV 母子感染 1) HIV 感染: 産科医の立場から. *周産期医学* 2007: 37: 1633-7
- 5) 嶋 貴子, 須藤弘二, 近藤真規子, 倉井華子, 相楽裕子, 今井光信: 蛍光酵素免疫測定法による新しい HIV 抗原抗体同時検出試薬 (第 4 世代) の検討. *感染症学雑誌* 2007: 81: 562-572
- 6) 須藤弘二, 嶋 貴子, 近藤真規子, 加藤真吾, 今井光信: Real-time PCR を用いた HIV-1 RNA 測定キットの基礎的検討. *感染症学雑誌* 2007: 81: 1-5
- 7) 今井光信, 嶋 貴子, 須藤弘二, 宮崎裕美, 近藤真規子: HIV 検査相談体制について—HIV 即日検査の導入から普及まで—. *保健医療科学* 2007: 56: 203-209
- 8) 大金美和, 山田由紀: 女性と子どもと HIV. HIV/AIDS ケア再考第 7 回. *看護学雑誌* 2007: 10: 954-961
- 1) 塚原優己, 谷口晴記, 山田里佳, 蓮尾泰之, 明城光三, 稲葉淳一, 林公一, 早川智, 喜多恒和, 和田裕一, 稲葉憲之: 妊婦 HIV スクリーニング検査が母子感染予防に及ぼす効果に関する試算. 第 59 回日本産科婦人科学会総会. 2007.4.14 (京都)
- 2) 喜多恒和, 松田秀雄, 工藤一弥, 岩田みさ子, 小早川あかり, 箕浦茂樹, 佐久本薫, 早川智, 塚原優己, 和田裕一, 稲葉憲之: わが国における HIV 感染妊娠の現状と経膈分娩の安全性に関する検討. 第 59 回日本産科婦人科学会総会. 2007.4.14 (京都)
- 3) 林公一, 和田裕一, 蓮尾泰之, 明城光三, 稲葉淳一, 喜多恒和, 塚原優己, 谷口晴記, 稲葉憲之: 母乳投与による HIV 母子感染における妊婦 HIV スクリーニング検査の意義について. 第 59 回日本産科婦人科学会総会. 2007.4.14 (京都)
- 4) 川上香織, 林聡, 左合治彦, 塚原優己, 久保隆彦, 北川道弘, 名取道也: 一絨毛膜二羊膜双胎の臨床経過と胎盤病理所見の検討. 第 59 回日本産科婦人科学会総会. 2007.4.14 (京都)
- 5) 谷口晴記, 田中浩彦, 小林良成, 樋口恭仁子, 松野忠明, 一尾卓生: 当科の HIV・AIDS 患者における STD の実態. 第 59 回日本産科婦人科学会総会. 2007.4.14 (京都)
- 6) 塚原優己, 関谷早苗, 矢永由里子, 内山正子, 喜多恒和, 外川正生, 大金美和, 稲葉憲之: シンポジウム 11 「HIV 予防対策の 20 年」—現在の医学的・社会的問題点とその対策—. 第 21 回日本エイズ学会学術集会・総会. 2007.11.28-30 (広島)
- 7) 喜多恒和, 吉野直人, 外川正生, 和田裕一, 塚原優己, 箕浦茂樹, 谷口晴記, 大場悟, 戸谷良造, 稲葉憲之: 本邦における HIV 感染妊娠の発生と母子感染予防対策の現状. 第 21 回日本エイズ学会学術集会・総会. 2007.11.28-30 (広島)
- 8) 吉野直人, 和田裕一, 喜多恒和, 蓮尾泰之, 林公一, 矢永由里子, 高橋尚子, 鈴木智子, 塚原優己, 外川正生, 戸谷良造, 稲葉憲之: 妊娠女性に対する HIV スクリーニング検査実施率の年次変化. 第 21 回日本エイズ学会学術集会・総会. 2007.11.28-30 (広島)

3. 学会発表

- 9) 五味淵秀人, 大金美和, 松岡憲, 喜多恒和, 外川正生, 塚原優己, 和田裕一, 稲葉憲之: HIV 感染女性のパートナーへの回避可能な妊娠に関する検討. 第 21 回日本エイズ学会学術集会・総会. 2007.11.28-30 (広島)
- 10) 陣田さつき, 森 尚義, 藤原篤司, 内藤雅大, 谷口晴記: 当院の患者背景と HAART 療法の変遷. 第 2 1 回日本エイズ学会. 2007.11.28-11.30 (広島)
- 11) 森尚義, 谷口晴記: 特別な支援を必要とした外国人 HIV 感染妊婦の症例. 第 2 1 回日本エイズ学会. 2007.11.28-11.30 (広島)
- 12) 佐野 (嶋) 貴子, 近藤真規子, 須藤弘二, 宮崎裕美, 倉井華子, 相楽裕子, 岩室紳也, 今井光信: 抗 HIV 抗体と HIV-1p24 抗原が同時検出可能な HIV 迅速検査試薬の検討. 第 21 回日本エイズ学会学術集会・総会. 2007.11.28-30 (広島)
- 13) 佐野 (嶋) 貴子: 在宅検査の現状と課題—郵送検査の現状と今後の課題—. 第 21 回日本エイズ学会学術集会・総会シンポジウム. 2007.11.28-30 (広島)
- 14) 山中 晃, 金子 恵, 青木 眞, 高 明志, 山元泰之, 福武勝幸, 嶋 貴子, 今井光信: 民間クリニックにおける即日検査の役割・診療所における HIV 迅速検査の現状報告. 第 21 回日本エイズ学会学術集会・総会シンポジウム. 2007.11.28-30 (広島)
- 15) 宮崎裕美, 佐野貴子, 近藤真規子, 須藤弘二, 今井光信: ろ紙を用いたドライブスポット法による HIV 検査法の検討. 第 21 回日本エイズ学会学術集会・総会. 2007.11.28-30 (広島)
- 16) 須藤弘二, 宮崎裕美, 佐野貴子, 近藤真規子, 加藤真吾, 今井光信: HIV 郵送検査に関する実態調査と検査精度の調査. 第 21 回日本エイズ学会学術集会・総会. 2007.11.28-30 (広島)
- 17) 近藤真規子, 宮崎裕美, 須藤弘二, 佐野貴子, 倉井華子, 相楽裕子, 岩室紳也, 杉浦互, 武部 豊, 今井光信: 日本で流行している HIV-1 サブタイプ B の diversity. 第 21 回日本エイズ学会学術集会・総会. 2007.11.28-30 (広島)
- 18) 星野国夫, 井戸田一朗, 中澤よう子, 今井光信, 佐野貴子: 地方自治体との連携による MSM 向けコミュニティセンター～開設までの経緯と事業内容～. 第 21 回日本エイズ学会学術集会・総会. 2007.11.28-30 (広島)
- 19) 今井敏幸, 小島弘敬, 大野理恵, 嶋 貴子, 今井光信: MSM における検査行動と HIV 感染の関係性に関する研究. 第 21 回日本エイズ学会学術集会・総会. (2007.11.28-30 (広島))
- 20) 今井敏幸, 小島弘敬, 大野理恵, 嶋 貴子, 今井光信: 検査の受検解析～受検理由・受検回数などからの一考察～. 第 21 回日本エイズ学会学術集会・総会. 2007.11.28-30 (広島)
- 21) 星野伸, 村松友佳子, 関水国大, 井上孝実, 瀧本哲也, 美濃和茂, 金田次弘, 堀部敬三: 母子感染予防目的で投与した 26 例におけるジドブジンシロップ内服による副作用. 第 21 回日本エイズ学会学術集会・総会. 2007.11.28-30 (広島)
- 22) 塚原優己: シンポジウム 3 性感染症における母子感染対策 6) HIV. 第 20 回日本性感染症学会 2007.12.1-2 (東京)
- 23) 谷口晴記, 塚原優己, 川戸美由紀, 源河いくみ, 山田里佳, 嶋貴子, 大金美和, 和田裕一, 喜多恒和, 外川正生, 稲葉憲之: 妊婦 HIV スクリーニング検査が母子感染予防におよぼす効果に関する検討. 第 25 回日本産婦人科感染症研究会学術講演会. 2007.6.16 (東京)
- 24) 松田秀雄, 喜多恒和, 吉野直人, 井上孝実, 小林裕幸, 佐久本薫, 高野政志, 中西美紗緒, 箕浦茂樹, 岩田みさ子, 清水泰樹, 宮崎泰人, 高橋尚子, 金子ゆかり, 稲葉憲之: 本邦における HIV 感染妊娠と母子感染予防対策の現状. 第 25 回日本産婦人科感染症研究会学術講演会. 2007.6.16 (東京)
- 25) 塚原優己: シンポジウム「これからの医療を考える」(3) 周産期センター医師として. 第 25 回東京母性衛生学会. 2007.5.13 (東京)
- 26) 塚原優己: シンポジウム「妊婦感染症を考える」5. 性感染症 (STI:sexually transmitted infection) と妊娠—産婦人科診療ガイドライン (案) を中心に—. 第 24 回日本分娩管理研究会. 2007.7.9 (東京)
- 27) 近藤真規子, 嶋 貴子, 杉浦 互, 武部 豊, 今井光信: 日本、特に首都圏において流行している

HIV-1 遺伝子学的特徴, 第 55 回日本ウイルス学会学術集会, 2007.10.21-23 (札幌)

28) 中原辰夫, 井上孝実, 柴田大二郎, 山田純子, 後藤藩二: カルボプラチンによるアナフィラキシーショックの死亡例, 第 45 回日本癌治療学会総会, 2007.10.24

29) 山田純子, 井上孝実, 中原辰夫, 柴田大二郎, 後藤藩二: 子宮頸部癌・体部癌および卵巣癌の 3 重複癌の 1 症例, 第 45 回日本癌治療学会総会, 2007.10.25

30) 吉田佳代, 田中浩彦, 樋口恭仁子, 谷口晴記: 診断に苦慮した若年巨大変性筋腫の一例, 第 121 回東海産婦人科学会, 2007.9.2 (名古屋)

31) 井上孝実, 中原辰夫, 柴田大二郎, 山田純子, 後藤藩二, 片平智行, 谷口晴記, 戸谷良造, 鈴置洋三: 名古屋医療センターにおける 2006 年末までの HIV 感染妊婦 39 例の統計, 第 85 回日産婦愛知地方会学術講演会, 2007.7.14 (名古屋)

32) 中林裕子, 谷口晴記, 一尾卓生, 松野忠明, 田中浩彦, 川戸浩明, 関義長, 樋口恭仁子, 小林良成: 淋菌による骨盤腹膜炎を呈した一例, 第 3 回 MMC 卒後研修臨床懇話会, 2007.1.20. (津)

33) 須川毅, 小林良成, 谷口晴記: 子宮肉腫疑いから発見された子宮内膜間質肉腫の一例, 第 3 回 MMC 卒後研修臨床懇話会, 2007.1.20 (津)

34) 小林良成, 谷口晴記, 樋口恭仁子, 田中浩彦, 松野忠明: 静脈内平滑筋腫症の 1 例, 第 120 回東海産婦人科学会, 2007.2.18 (名古屋)

35) 佐野(嶋)貴子, 近藤真規子, 今井光信: 妊婦集団における HIV スクリーニング検査の偽陽性出現率に関する調査, 第 62 回神奈川県感染症医学会, 2007.9.22 (横浜)

36) 近藤真規子, 佐野(嶋)貴子, 高橋華子, 相楽裕子, 岩室紳也, 今井光信: 日本で検出された CRF01_AE/B リコンビナント HIV-1 について, 第 62 回神奈川県感染症医学会, 2007.9.22 (横浜)

4. 講演

1) 谷口晴記: わが国における HIV 感染妊娠—予防と対策, エイズ予防財団主催 平成 19 年度研究成果

発表会, 2007.7.28 (青森)

2) 島尾忠男, 稲葉憲之, 塚原優己, 蓮尾泰之, 嶋貴子, 喜多恒和, 国方徹也, 花房秀次, 大島敦子: わが国における HIV 感染症—妊娠・周産期から小児期—, 2007 AIDS 文化フォーラム in 横浜, 2007.8.4 (横浜)

3) 塚原優己: わが国における HIV 感染妊娠—予防と対策, エイズ予防財団主催 平成 19 年度研究成果発表会, 2007.10.20 (高知)

4) 塚原優己: 妊娠高血圧症候群, 東北周産期セミナー—2007—, 2007.7.21 (仙台)

5) 佐野(嶋)貴子: HIV 検査の現状と課題, エイズ予防財団主催 平成 19 年度 HIV 感染症に関わる拠点病院の心理職・MSW・自治体のカウンセラー向け研修会, 2007.1.25 (東京)

6) 佐野(嶋)貴子: 検査の動向 現状と課題, エイズ予防財団主催 平成 19 年度 HIV 検査・相談研修会 (応用編), 2007.5.17 (東京)

7) 佐野(嶋)貴子: HIV 検査について, エイズ予防財団主催 平成 19 年度 HIV スクリーニング検査研修, 2007.5.29 (神奈川)

8) 佐野(嶋)貴子: HIV 抗体検査について, エイズ予防財団主催 平成 19 年度電話相談員講習会, 平成 19 年 6 月 16 日 2007.6.16 (東京)

9) 佐野(嶋)貴子: HIV 検査について, AIDS ネットワーク横浜第 15 期 AIDS ボランティア学校, 2007.6.30 (横浜)

10) 佐野(嶋)貴子: HIV 検査の基礎知識: 各検査の特徴と課題, エイズ予防財団主催 平成 19 年度 HIV 検査・相談研修会 (基礎編), 2007.10.26 (東京)

11) 大金美和: 女性と HIV に関する課題の検討, 平成 19 年度予防・ケア入門研修会, 財団法人エイズ予防財団, 仙台, 9 月, 2007.

12) 大金美和: 働きたいが働けていない人のために, 社会福祉法人はばたき福祉事業団主催 HIV 感染者就業のための協働シンポジウム, 2007.10 月 (東京)

13) 大金美和: 女性と HIV, 東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科勉強会, 2007.10 月 (東京)

14) 大金美和: 女性と HIV, ACC1 ヶ月研修, 2007.10 月 (東京)

15) 大金美和: HIV/AIDS 看護大学院セミナー. 2007.7 月 (東京)

[新聞掲載] 1. 望まれるカウンセリング体制のいっそうの充実—フォロー体制が難点の在宅検査—: メディカルトリビューン Vol.41 No.3 P14

平成 20 年度業績

1. 書籍

- 1) 塚原優己 他: 日本産婦人科医会 研修ノート: No.80 合併症妊娠. 東京: 日本産婦人科医会, 2008
- 2) 塚原優己 他: 日本産婦人科医会 研修ノート: No.81 乳房疾患の管理. 東京: 日本産婦人科医会, 2009
- 3) 大金美和: HIV 感染者/AIDS 患者の療養経過と支援過程. 慢性期看護論. p313-315, 2008.
- 4) 大金美和: 女性と HIV, HIV 相談マニュアル. 東京: 財団法人エイズ予防財団, 2008.

2. 論文発表

- 1) Kondo M, Sudo K, Tanaka R, Sano T, Sagara H, Iwamuro S, Takebe Y, Imai M, Kato S. Quantitation of HIV-1 group M proviral DNA using TaqMan MGB real-time PCR. J. V. Meth., in press.
- 2) 山田里佳, 嶋 貴子, 今井光信, 谷口晴記, 和田裕一, 塚原優己, 稲葉憲之. 妊婦 HIV スクリーニング検査の偽陽性に関する検討. 日本性感染症学会誌. 19(1): 122-126, 2008.
- 3) 塚原優己, 山田里佳, 嶋 貴子, 外川正生, 喜多恒和, 稲葉憲之, 和田裕一. 性感染症における母子感染対策—HIV—. 日本性感染症学会誌. 19(1): 63-68, 2008.
- 4) 中瀬克己, 佐野(嶋)貴子, 今井光信. 性感染症の検査体制の現状と課題—保健所等における HIV 検査体制を中心に—. 日本臨牀. 67(1): 30-36, 2009.
- 5) 三井真理, 塚原優己. 性感染症と母子感染. 日本臨牀. 67(1): 177-184, 2009.
- 6) 大金美和. HIV 感染女性の妊娠・出産希望に対する支援の問題. 日本ウーマンズヘルズ学会誌. 7:21-22, 2008.

7) 谷口晴記, 田中浩彦, 伊藤謙子, 吉田佳代, 朝倉徹夫. 性感染症 up to date.【性感染症への対応と治療】7.梅毒. 臨床婦人科産科. 63(2): 170-173, 2009.

3. 学会発表

- 1) M. Kondo, K. Sudo, T. Sano, H. Kurai, Y. Sagara, S. Iwamuro, W. Sugiura, Y. Takebe, M. Imai: The genetic diversity of HIV-1 subtype B in Tokyo and Yokohama area, Japan. XVII International AIDS Conference. (3-8 August, 2008, Mexico city, Mexico)Yamada R., Shima T., Imai M., Genka I., Ogane M., Kawado M., Taniguchi H., Tsukahara Y., Inaba N.: The false positive rate of antenatal HIV screening is very high in Japan. XVI International AIDS Conference. 13-18 August, 2006, (Toronto, Canada)
- 2) 谷口晴記, 塚原優己, 井上孝美, 山田里佳, 大金美和, 辻麻理子, 内山正子, 渡邊英恵, 源河いくみ, 吉野直人, 外川正生, 喜多恒和, 稲葉憲之, 和田裕一: HIV 母子感染予防対策マニュアル・改訂第 5 版の概要. 第 22 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2008.11.26-28 (大阪)
- 2) 大金美和: シンポジウム Mother and Children PLWHA 女性の周産期医療と子育てをめぐる諸問題, こどもをもつ女性 HIV 陽性者の療養支援. 第 22 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2008.11.27 (大阪).
- 3) 矢永由里子, 辻麻理子, 高田知恵子, 今井敏幸, 林公一, 蓮尾泰之, 明城光三, 吉野直人, 喜多恒和, 稲葉憲之, 和田裕一: 妊婦 HIV 検査実施についての検討 妊婦 HIV 一次検査実施マニュアルの作成の経緯と反応を中心に. 第 22 回日本エイズ学会学術集会・総会. 2008.11. 26-28 (大阪)
- 4) 佐野(嶋)貴子, 山中晃, 金子恵, 井戸田一朗, 平井由見, 岩室紳也, 須藤弘二, 近藤真規子, 今井光信: 唾液で検査可能な HIV 迅速検査試薬の検討. 第 22 回日本エイズ学会学術集会・総会. 2008.11. 26-28 (大阪)
- 5) 木内英, 岩室紳也, 相楽裕子, 大木茂, 元重京子, 近藤真規子, 今井光信, 花房秀次, 加藤真吾: 母子感染予防における出生児の AZT 薬物動態と副作用.

- 第 22 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2008.11.26-28 (大阪)
- 6) 田中理恵, 古谷茂之, 林邦彦, 今井光信, 加藤真吾: HIV-1 RNA 定量キットのコントロールサーベイ, 第 22 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2008.11.26-28 (大阪)
- 7) 近藤真規子, 田中理恵, 須藤弘二, 佐野貴子, 岩室伸也, 倉井華子, 立川夏夫, 相楽裕子, 加藤真吾, 今井光信: 汎用リアルタイム PCR 装置を用いた HIV-1 RNA 定量法の検討, 第 22 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2008.11.26-28 (大阪)
- 8) 星野慎二, 井戸田一朗, 広岡直, 中澤よう子, 佐野貴子, 今井光信: かながわレインボーセンターにおける HIV 即日検査事業, 第 22 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2008.11.26-28 (大阪)
- 9) 須藤弘二, 佐野貴子, 近藤真規子, 加藤真吾, 今井光信: HIV 郵送検査に関する実態調査および検査精度の調査, 第 22 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2008.11.26-28 (大阪)
- 10) 神谷昌枝, 石川雅子, 一色ミニキ, 菊池恵美子, 佐藤愛子, 高橋義博, 高田知恵子, 辻麻理子, 濱口元洋, 牧野麻由子, 山中京子: 派遣カウンセリングの効果的運用に関する研究, 第 22 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2008.11.26-28 (大阪)
- 11) 仲倉高広, 尾谷ゆか, 佐藤愛子, 牧野麻由子, 北志保里, 菊池恵美子, 喜花伸子, 辻麻理子, 山中京子, 白坂琢磨: カウンセリングの機能とカウンセラー同士の連携の類型化の試み 地域に応じたカウンセリング体制の構築を目指して, 第 22 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2008.11.26-28 (大阪)
- 12) 阪木淳子, 辻麻理子, 長与由紀子, 井上緑, 米山朋子, 首藤美奈子, 山本政弘: 自治体派遣カウンセラーの活用拡大に関する研究 HIV 検査相談研修会の実践からの考察, 第 22 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2008.11.26-28 (大阪)
- 13) 長与由紀子, 城崎真弓, 辻麻理子, 本松由紀, 首藤美奈子, 安藤仁, 南留美, 山本政弘: 社会的背景の複雑な患者の退院調整を振り返って 発達地帯の患者の事例を通して, 第 22 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2008.11.26-28 (大阪)
- 14) 森尚義, 谷口晴記: Darunavir と Raltegravir の併用が奏効した多剤耐性の症例, 第 22 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2008.11.26-28 (大阪)
- 15) 田沼順子, 大金美和, 矢崎博久, 本田美和子, 湯永博之, 照屋勝治, 立川夏夫, 菊池嘉, 岡慎一, 瓜生英子, 山中純子, 国方徹也, 宮澤廣文, 松下竹次, 源河いくみ: 当院における HIV 合併妊娠に対する抗レトロウイルス療法, 第 82 回日本感染症学会, 2008.04.19 (島根)
- 16) 塚原優己, 井上孝実, 谷口晴記, 山田里佳, 明城光三, 大島教子, 林公一, 蓮尾泰之, 佐久本薫, 喜多恒和, 和田裕一, 稲葉憲之: わが国独自の「HIV 母子感染予防対策マニュアル」改訂の骨子, 第 60 回日本産科婦人科学会総会, 2008.04.12-15 (横浜)
- 17) 谷口晴記, 田中浩彦, 吉田佳代, 樋口恭仁子, 朝倉徹夫: 特別な支援を必要とした外国人 HIV 感染妊婦の 3 症例, 第 60 回日本産科婦人科学会総会, 2008.04.12-15 (横浜)
- 18) 谷口晴記, 塚原優己, 井上孝実, 山田里佳, 大金美和, 辻麻理子, 内山正子, 渡邊英恵, 源河いくみ, 外川正生, 喜多恒和, 稲葉憲之, 和田裕一: HIV 母子感染予防対策—マニュアル・改訂第 5 版について, 第 26 回日本産科婦人科感染症研究会, 2008.06.14 (宮崎)
- 19) 草川聡子, 杉本和史, 橋本明, 森尚義, 谷口晴記: いきなりエイズの 1 例, 平成 19 年度三重 HIV 会議, 2008.03.14 (津)

4. 講演

- 1) 塚原優己: HIV 母子感染予防対策と多剤併用療法 20 年—現在の問題点とその対策—, 第 16 回静岡エイズシンポジウム, 2009.03.14 (静岡)
- 2) 塚原優己: 教育シンポジウム プライマリケアに必要な専門領域の知識—骨盤領域(直腸・泌尿器・産婦人科)におけるプライマリケア—: 妊娠・分娩にかかわる外科系知識, 第 33 回日本外科系連合学会学術集会, 2008.07.12-13 (浦安)
- 3) 山田里佳: HIV 母子感染予防対策マニュアル(第 5 版) その変遷, エイズ予防財団主催平成 20 年度研究成果発表会「わが国における妊婦の HIV 感染〜対

応策とその進歩」, 2006.11.01 (富山)

4) 谷口晴記: 母子感染予防対策マニュアルとその変遷, エイズ予防財団主催平成 20 年度研究成果発表会「わが国における妊婦の HIV 感染～対応策とその進歩」, 2006.1.24 (仙台)

5) 谷口晴記: 母子感染予防対策マニュアルとその変遷, エイズ予防財団主催平成 20 年度研究成果発表会「わが国における妊婦の HIV 感染～対応策とその進歩」, 2006.2.01 (佐世保)

6) 大金美和: HIV 陽性者のためのプログラム, ぶれいす東京主催 何でも訊いてみよう HIV 医療, 2008 年 2 月 (東京)

7) 大金美和: 女性・CSW の課題とアプローチ, (財) エイズ予防財団主催平成 20 年度「エイズ予防・ケア研修会 (入門編)」, 東京, 7 月, 2008 年 7 月 (東京)

8) 大金美和: HIV 感染妊婦の心理状況とそのケア, 知っておきたい 検査・相談で役立つ妊婦の HIV 検査と母子感染対策の最新情報, AIDS 文化フォーラム in 横浜 HIV/AIDS 保健・医療・教育関係者向け研修, 2008 年 8 月 (横浜).

9) 辻麻理子, 古谷野淳子, 高田知恵子: 第 7 分科会 HIV 領域, 日本臨床心理士会第 14 回医療における心理臨床ワークショップ, 2008.02.10 (東京)

10) 辻麻理子: 性の多様性を考える, (財) エイズ予防財団平成 20 年度 HIV 検査・相談研修会 (応用編), 2008.05.16-17 (東京)

11) 辻麻理子: 担当者の基本姿勢, (財) エイズ予防財団平成 20 年度 HIV 検査・相談研修会 (基礎編), 2008.09.16 (東京)

12) 辻麻理子: HIV 感染者と人権, 福岡県主催平成 20 年度人権相談従事職員研修, 2008.09.17 (福岡)

13) 辻麻理子: HIV 陽性者のメンタルヘルス, (財) エイズ予防財団平成 20 年度予防ケア研修 (入門編), 2008.10.11-12 (福岡)

14) 辻麻理子: 子どもと HIV, 福岡 HIV ネットワークシンポジウム, 2008.12.12 (福岡)

分担研究（経母乳感染）総合研究報告書

分担研究者：名取道也 国立成育医療センター研究所長
研究協力者：山口晃史 国立成育医療センター病院母性内科医師

研究要旨：HIV の経母乳感染を防止することを目的とした基礎的実験を行った。その結果、母乳中の細胞を除去することが HIV 母子感染防止に有用であると推測された。この結果をもとに、母乳中の細胞を孔径 $8\mu\text{m}$ のフィルターにより除去して哺乳が可能な特殊搾乳・哺乳瓶を試作した。次にこの哺乳瓶が開発途上国の現場で使用可能なように改良を行った。しかし研究室での実験で問題がなかったフィルターが、ボランティアにより母乳を直接哺乳瓶にて濾過する試験において、容易に目詰まりを起こすことが判明し、フィルターを含め濾過方式の再検討を開始した。またフィールドワークを予定しているラオスに渡航し、ビエンチャンにおいて現地の調査を行い、母子保健指導担当者の配備状況等を確認した。

A. 研究目的

我々が開発した特殊な構造を有する搾乳瓶の使用により、授乳を介する母子感染を回避することの可能性を、最終的にはフィールドワークを行った結果母子感染率を低下させることにより証明することを目的とした。HIV 感染母体から児への感染のうち母乳保育を原因とする割合はおよそ 10-30%程度と推測される。経済的理由により抗ウイルス薬の投与が困難、また人工栄養等一般的に標準とされる対応が困難な開発途上国では、結果として母子感染による HIV 患者の増加を招いている。乳児の発達・発育に関して母乳の有用性は明らかであり、本搾乳瓶の有用性が確認されれば、開発途上国における経母乳 HIV 母子感染を減少させることが可能となるばかりか、先進国においても HIV 感染母体の母乳保育を可能とする道を開くことが期待される。

B. 研究方法

HIV 感染母体の母乳が、フィルターを装着し酸化チタン処理を行った搾乳瓶を使用することより感染能力を消失するかを検証する計画の第一歩として、平成 18 年度は第一段階として試作した特殊搾乳・哺乳瓶について、その形状、材質などに改良を加えた。母乳に含まれる細胞をトラップする上で最適なフィルターのサイズは $8\mu\text{m}$ であることが判明しているが、搾乳・哺乳瓶の試作、改良については、(株)ビジョンの大貫研究室と共同して研究を行った。

またその有効性を検証するため、人工的に HIV を混入させた非感染母乳を、フィルターを組み込んだ特殊搾乳・哺乳瓶で搾乳した後約 1 時間日光下においた母乳を用いて実験を行った。ウイルスの activity は、p24 抗原の濃度換算で 400 ng/ml の HIV-1_{MB} を含む母乳を用い、日光下に 60 分置いた後に乳汁を M8166 と 5 分間インキュベートし、RPMI 培地で 3 日間培養後、p24 抗原の産生量を酵素抗体法にて計測して算出した。

平成 19 年度はその試作した哺乳瓶が大量生産に向くよう、また消毒などを含め開発途

上国での実際の使用に耐えうるような仕様とするための改良を行った。部品数を少なくし、各部品のつなぎは金属性とした。有効性の検証は以前に報告した方法と同様の方法を用いて、p24 抗原の産生量を酵素抗体法にて計測して算出した。

平成 20 年度は①開発途上国での使用に向けての哺乳瓶の更なる改良②研究協力を募り、実際に特殊哺乳瓶を用いて搾乳を行った後の細胞感染実験を行う③開発途上国に赴いてのフィールドワークの基礎調査、を行った。②については、倫理委員会の承認を得て、現在までに 3 名の授乳婦の研究協力を得て、乳房から直接哺乳瓶に母乳を注ぎ、それを吸引して濾過してもらった。

C 研究結果

メンテナンスを考慮し極力シンプルな構造を目指した。試作した特殊搾乳・哺乳瓶は、搾乳カップ(シリコン製)部、フィルター部、貯乳部の三つの部位よりなる。フィルターは当初セルロース製直径 47mm を使用したが、鋭的なもので破損しやすいためポリカーボネート製のメンブレンに変更した。また乳汁がフィルターを通過する時間を短縮するため、吸引ポンプを用いる方式とした(図 2)。図に示した哺乳瓶を用い、フィルターでろ過後日光下に 60 分間置いたサンプルの p24 抗原の産生量はほぼ 0 であった。

平成 19 年度はフィルター設置部分を検討し工作の容易さ、コストの 2 点からベリリウム製とベリリウム-銅製の二つで検討を行ったが、ベリリウム製のほうが優るとの結論となった。

しかし平成 20 年度に協議を行った結果、開発途上国においては授乳婦にフィルターの装着を行わせることはリスクが高い、との結論からディスプレイまたは回収して専門化がフィルター交換を行う方式を前提に特殊

哺乳瓶の構造の再検討を行った。

研究に協力いただいた授乳婦の実験では、1 名では 50ml のフィルター処理に 5 分、次の 50ml のフィルター処理に同じく 5 分を必要とした。乳汁中細胞量はそれぞれ 3×10^3 cells/ml、 1.8×10^3 cells/ml であり、フィルター処理後の細胞数は 0 であった。2 番目の協力者では最初の 50ml のフィルター処理が 8 分、次の 50ml のフィルター処理に 20 分を必要とした。さらに細胞は濾過されておらず、事後の聞き取りから、濾過にかなりの圧力を要したこと、予想外に濾過に時間を要したためフィルター部分を触ったことが判明した。これを踏まえ 3 番目の協力者では母乳を単に 50ml とってもらい、研究者が直ちに濾過処理を行った。高い圧力で濾過を行ったが、フィルターは目詰まりを起こしたと考えられた。

D 考察

3 年間の研究において、母乳から細胞成分を除去できれば母子感染防止に有用な手段となりうることを、実験室レベルでは確認した。

これを臨床応用するために、特殊哺乳瓶の開発を行ってきたが、いわゆる粉ミルクでは全く問題がなかった装置が、3 例中 2 例で分泌直後の母乳ではフィルターによる濾過に大きな問題が生じることとなった。

その原因は人工乳では通過障害がみられなかったため、脂質が最もその原因として疑われ、さらに、搾乳時の気温、搾乳から処理までの時間もその要因と考えられた。

今後これらの現象を明らかとし、脂質通過とフィルター素材、陰圧に対するフィルター口径の安定した素材、有効フィルター処理面積、吸引力の検討を行う必要がある。この哺乳瓶の有用性の本当の証明のためには、フィールドワークが実施される必要がある。開発途上国での使用者のコンプライアンスを充分に考えた設計である必要があり、フィルター部分のデ